

登録コード	UAB16600	開講年度	2026				
授業題目	心理学ARⅡ				担当教員	今井 章 他	
					副担当	高瀬 弘樹・岡本 卓也・松本 昇・白井 真理子	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・1時限		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				⇔	【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学，2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。				⇔	人間と社会を中心とした多種多様な側面を持つ人間の心理に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する心理学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を持てるようになる。	
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。				⇔	人間の心理に関わる高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案ができるようになる。	
	【人間文化学】人間文化学に関わる地域中核人材・研究者・教育者として備わっているべき高い倫理観を有する。				⇔	人間の心理に関わる地域中核人材・研究者として備わっているべき倫理観を身につけることができるようになる。	
(2)授業の概要	担当教員が実験心理学の領域における様々な問題意識，その解決方法，さらに心理学的現象の数量化についてまず概説し，受講生とその内容についてディスカッションをする。各受講生は，その後，それぞれの興味にしがたって，心理学における実験的研究についての最新の諸文献をレポーターとして紹介する。そして，その文献で得られた知見の意義やその後の研究への影響力などを考察する。これにより，受講生がオリジナリティのある研究計画を立案し，その計画について，さらにディスカッションを重ねる。この過程を経て研究計画を確定させ，その計画に従って，受講生が実験を実施し得られたデータを解析して結果を得る。この結果について，さらにレポーターとして発表し考察を深める。最終的には，一連の成果をレポート論文としてまとめる。						
(3)授業計画	第1回： 授業ガイダンス 第2回： 実験心理学における研究論文の紹介 第3回： 実験心理学における研究テーマの選定 第4回： 研究計画の立案（問題） 第5回： 研究計画の立案（目的と方法） 第6回： 研究計画の実施①（実験1） 第7回： 研究計画の実施②（実験2） 第8回： 研究計画の実施③（実験3） 第9回： 研究計画の実施④（実験4） 第10回： データの数量化と解析 第11回： 実験結果のまとめ 第12回： 考察 第13回： 研究の発表と討論 第14回： レポート論文のまとめ方 第15回： まとめ 期末試験の有無 無 なお，状況に応じて，予告した内容を変更する場合がある。						
(4)成績評価の方法	以下を総合して判定する。 授業への取り組み方（50%），レポート（50%） ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀，89-80% 優，79-70% 良，69-60% 可，59%以下 不可。						
(5)成績評価の基準	【卓越している】実験心理学に関する基礎的な知識をもとに，適切な情報処理を行い，論理的に思考し，数量的に思考し，自律的に考え，心理学実験研究を遂行する力を総合して，極めて高い水準にある。 【かなり上にある】実験心理学に関する基礎的な知識をもとに，適切な情報処理を行い，論理的に思考し，数量的に思考し，自律的に考え，心理学実験研究を遂行する力を総合して，非常に高い水準にある。 【やや上にある】実験心理学に関する基礎的な知識をもとに，適切な情報処理を行い，論理的に思考し，数量的に思考し，自律的に考え，心理学実験研究を遂行する力を総合して，高い水準にある。 【その水準にある】実験心理学に関する基礎的な知識をもとに，適切な情報処理を行い，論理的に思考し，数量的に思考し，自律的に考え，心理学実験研究を遂行する力を総合して，一定水準にある。						
(6)事前事後学習の内容	授業への参加にあたっては，事前に担当教員によって指示された実験心理学における幾つかの論文を講読してくる必要がある。授業内で議論され，指摘された点は事後学習の材料とする。さらに，提出された論文レポートは，添削されて返却される。これも事後学習の材料とする。						
(7)履修上の注意	心理学についての学部での基礎的知識（心理学概論，心理学研究法，心理実験法，心理統計法）があることを前提に授業を進める。						
(8)質問,相談への対応	授業での疑問は授業内で解決できるよう，積極的に発言する。その他の場合は，いずれかの担当教員（imaiakr[at]shinshu-u.ac.jpなど）にアポイントメントを取った上で，個別に相談する。						
【教科書】	使用しない。						
【参考書】	村上郁也編著 （2011）. 心理学研究法1 感覚・知覚 誠信書房 3,672円 箱田裕司編著 （2012）. 心理学研究法2 認知 誠信書房 3,672円						